

十種神宝祝詞

高天原に神留り坐す 皇親神漏岐 神漏美の

命以ちて 皇神等の鑄頭し給ふ 十種の瑞寶

を饒速日命に授け給ひ 天津御祖神は言誨

詔給はく 汝命この瑞寶を以ちて 豊葦原の

中國に天降り坐て 御倉棚に鎮め置て 蒼生

の病疾の事あらば この十種の瑞寶を以ちて

一二三四五六七八九十と唱へつつ 布留部

由良由良と 布留部 かく為ては死人も生反

らむと言誨給ひし随まに 饒速日命は天磐船

に乗りて 河内國の河上の哮峯に 天降坐給

ひしを 爾後大和國 山邊郡 布留の高庭な

る石上神宮に遷し鎮め齋き奉り 代々其が

瑞寶の御教言を蒼生の為に 布留部の神辞と

仕奉れり 故この瑞寶とは 澳津鏡 邊津鏡

八握劔やつかのつるぎ

生玉いくたま

足玉たるたま

死反玉まかるがへしのたま

道反玉ちがへしのたま

蛇へみ

比禮のひれ

蜂比禮はちのひれ

品々物比禮くさぐさのものひれの十種とくさを

布留ふるの

御魂神みたまのかみと

尊たふとみ敬うやまひ齋奉いつきまつることの由縁よしを

平たいら

けく安やすらけく聞きこし食めして

蒼生あおひとぐさの上うへに罹かかれる

災害わざわい及また諸諸もろもろの病疾やまひをも

布留ふる比除ひのけ 祓はらひ却や

り給たまひ

壽命よわひ長ながく

伊加志いかし八桑枝やぐはえの如ごとく

立た

ち榮さかへしめ

常磐とぎはに堅磐かきはに

守まもり幸さきはへ給たまへと

恐かしこみ恐かしこみ白まをす